

教育が受けられないことで起こる “負の連鎖”を考える

ワークショップのねらい

- 「学校に行けない」ことによって生じる問題を理解し、派生する問題を通して、その後どのような影響があるかを気付かせる。
- 世界には、基礎的な教育を受けられない同世代の児童や生徒が大勢いることを知り、この現状について考えさせる。
- 学校に行けないことから派生する負の連鎖を知り、「教育」の持つ意味を考え、学ぶことの大切さを再認識させる。
- 教育を受けられない状況が様々な因果関係によって成立していることを理解し、この状況から抜け出すためにどうすればよいかを考えさせる。
- 貧困状態は、教育を受けられないことだけから始まるものではなく、様々な状況や理由から負の連鎖に陥り、抜け出せなくなる可能性があることを理解させる。

ワークショップの進め方

使用例

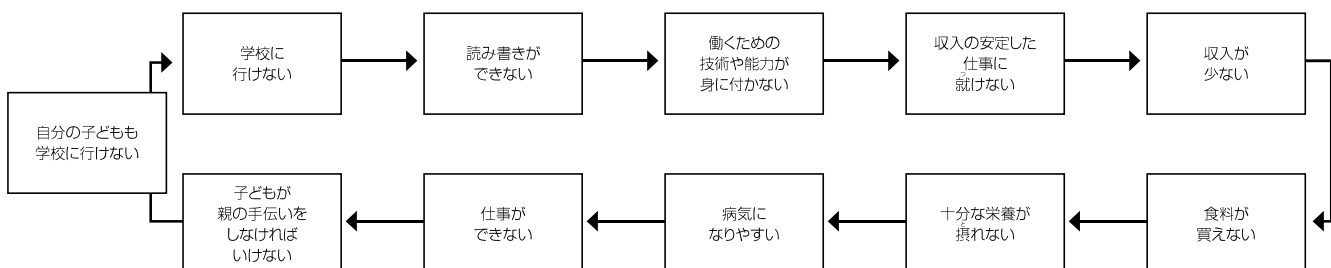
- ①右のページにある15枚のカードを切り離して用意し、「学校に行けない」カードを起点として置く。
 - ②自分が学校に行けないことを想定して、学校に行けないことにより生じる問題を考え、その問題から順々に派生する問題へとつなげていく。
 - ③最終的に負の連鎖カードが輪（スパイラル）になるようにする。
- 注1：用意されているカードに項目がない場合や足りない場合は空白のカードに書いて、他のカードとつなげてよい。
- ④負の連鎖の状況を見て、どうすればこの状況から抜け出せるかを話し合う。どういう取り組みをするのが負の連鎖を断ち切るのに最も効果的かを考える。

注2：まず初めは個人（自分自身）の力だけで負の連鎖から抜け出せるかどうかを考えさせ、その後、社会としてどう取り組むべきかを考えさせる。

指導のポイント・視点

- カードの順番は、原因→結果の関係となるよう考えさせ、つなげるように並べていき、最終的に輪（スパイラル）になることを気付かせる。
- 特に正解の順番があるわけではない。連鎖して、輪になって抜け出せなくなることを認識させる。
- 貧困状況に陥ることは怠惰や個人の努力不足ではなく、貧困状況に一度陥ってしまうと個人の努力では悪循環から抜け出すことが難しいことに気付かせる。
- 負の連鎖は発展途上国だけの問題ではなく、身近なこととして、日本や先進国の社会でも存在していることにも気付かせる。
- 負の連鎖から抜け出すことができた事例などを取り上げ、負の連鎖を断ち切るための取り組みの事例を調べたり、社会として取り組むことの重要性を認識させる。

モデル例





やってみよう!

「学校に行けない」のカードを一番目に置き、そこからどのようにつながっていくかを考えてみましょう。項目がない場合や足りない場合には、白紙のカードに書き込んで、新しいカードを作りましょう。

<p>学校に行けない</p> 	<p>収入が少ない</p> 	<p>働くための技術や能力が身に付かない</p> 
<p>仕事ができない</p> 	<p>食料が買えない</p> 	<p>自分の子どもも学校に行けない</p> 
<p>収入の安定した仕事に就けない</p> 	<p>病気になるやすい</p> 	<p>学校に行く時間がない</p> 
<p>読み書きができない</p> 	<p>十分な栄養が摂れない</p> 	<p>子どもが親の手伝いをしなければいけない</p> 



考えてみよう!

- 「収入が少ない」など、他のカードから始めたらどのような結果になるか試してみましょう。
- 自分が、「負の連鎖」の中にいたとしたら、自力で悪循環から抜け出せるかを考えましょう。
抜け出せるのであれば、どうやって抜け出すのか、抜け出せないのであれば、どうして抜け出せないのかを考えてみましょう。
また、周り（家族、地域、国）からどのようなサポートがあれば抜け出せるのかを考えてみましょう。



振り返ってみよう!

- 学校に行けない子どもたちのことをレポートした本や、インターネットで探して調べてみましょう。
- 教育が十分に受けられないことによって発生する問題は何も発展途上国に限ったことではありません。私たちの身近でも同じような問題が起こっていないかどうか調べてみましょう。